

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870300492
法人名	医療法人 三善会
事業所名	グループホーム 薬師谷マナー
所在地	愛媛県宇和島市川内甲2101番地
自己評価作成日	平成22年7月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 22 年 8 月 4 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

寄り添い、出来ないことを支援し、笑い声が聞こえる明るいホームを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人が運営しているため、入居者、職員の健康管理には十分な配慮がされている。管理者をはじめ職員全員は、利用者一人ひとりの人格を尊重し穏やかな笑顔で寄り添うことを心掛けており、日々、心のこもったケアを行っている。また、職員のレベルアップを目指した研修や資格取得などにも力を入れて取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム薬師谷マナー

(ユニット名) 岩戸

記入者(管理者)

氏名 横濱 和枝

評価完了日 22年 7月 9日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 地域密着型サービスの意義をミーティングで話し合い、ユニットで理念を作り実践に取り組んでいる。	
			(外部評価) 職員の話し合いで作った基本理念は、利用者が地域の中でその人らしく暮らしていくことを支える理念として掲げ、さらに各ユニットで具体化した行動目標をホーム内のわかりやすい場所に提示し、職員全員で共有し、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の一員として、自治会活動にも参加し、清掃活動等出来る事は参加している。又普段は散歩、畑仕事等気軽に声かけし、挨拶している。	
			(外部評価) 自治会に加入し、地域の一員としての役割を担うとともに、行事を把握して地区の清掃活動や運動会、七夕祭り等に積極的に参加し、地域との交流を大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 特別な事はしていないが、普段の付き合いから認知症に対する理解は少しずつではあるが出来つつあるように思う。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1度開催しており、地域の方、家族の方、いろいろな意見を頂いている。又ホームでの取り組みや、現状を報告してオープンにしている。	
			(外部評価) 会議は2か月に1回開催され、議事録は整備されている。事業所からの活動状況報告、イベント開催のお知らせなどしている。参加者との何気ない話から要望が出たり、家族からも活発に意見が出され、そこでの意見等がサービス向上に活かされている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議へ参加協力して頂き、市GH連絡会へ参加し、介護保険の適正な運営に協力している。	
			(外部評価) 運営推進会議には必ず市担当者の出席があり、サービスについて情報を得ている。介護認定の更新の機会など市担当者に利用者の暮らしぶりや、ニーズを伝え連携を深めている。市内のグループホーム連絡会に加入し、他事業所との交流や意見交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 全員が理解していて、取り組んでいたがどうしても目が届かない時、(介護者が一人になる場合)夕方1時間弱位、時によって施錠する事がある。	
			(外部評価) 管理者、職員ともに身体拘束による利用者への身体的、精神的な苦痛を理解するとともに、身体拘束ゼロへの手引きや職務の中で学習をしながら、玄関の施錠を含めて身体拘束をしない支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 何が虐待に当たるか、全員が理解している。職員のストレスにも気を配り、気をつけている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 十分理解しているが、現状は家族が管理されている。他のユニットでは後見人をつけて頂いた方がいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時、十分な説明をし疑問点等尋ね、納得の上契約をしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族の方が訪問時、又は事あるごとに意見を聞き、出来る事は対応している。	
			(外部評価) 運営推進会議を通じて意見や要望をもらっている。また、家族の面会時に話し合える環境も作っている。利用者、家族、親族の思いが違ふこともあり日常のかかわりの中で、本人の思いを聞く努力をしている。出された意見は運営に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) スタッフミーティング、管理者ミーティング等、定期的 に開催して、対応出来る事は対応している。	
			(外部評価) 管理者は、普段の会話等の時にも職員が話しやすい雰 囲気作りに気を配っている。職員も活発な意見を出し 合い、より良い運営ができるよう全員で取り組んでい る。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実 績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時 間、やりがいなど、各自が向上心を持って 働けるよう職場環境・条件の整備に努めて いる	(自己評価) 管理者ミーティング等で各職員の状況の把握に努め、 研修にも参加でき、向上心を持って働けるようにして 頂いている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケア の実際と力量を把握し、法人内外の研修を 受ける機会の確保や、働きながらトレーニ ングしていくことを進めている	(自己評価) 代表者は研修にも参加する事を奨励し、資格も取るよ うに働きかけて頂いている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流す る機会をつくり、ネットワークづくりや勉 強会、相互訪問等の活動を通じて、サービ スの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 代表者は、特定の施設との交流は認めて頂いている が、特に取り組みなどはしていない。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が 困っていること、不安なこと、要望等に耳 を傾けながら、本人の安心を確保するた めの関係づくりに努めている	(自己評価) 初期に十分に時間を取り、安心して頂けるようにお話 を聞いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 初期に十分時間を取り、お話を聞いている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談がある段階で、その方に何が必要か見極め対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 寄り添い支えあう関係づくりを目指している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族さんの負担にならない程度に介護に参加して頂いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) できる限り本人が暮らしてこられた生活を継続できるように支援している。	
			(外部評価) 行きつけの美容室に通ったり、昔からの友人が訪問してくてくれる。元教師の利用者に教え子が訪ねてくることもある。また、行きたい場所へは家族の協力を得ながら可能な限り行くようにし、馴染みの人や場所との関係が途切れずに継続できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係がいかに重要か、職員も十分理解していて、関係が良好な時は見守り、ぎこちない時はそれとなく寄り添い、仲間に入れるように働きかける。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退去された時は、相談があれば、相談に乗り、経過もフォローし、連絡したりしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の関わりの中で、声をかけ、把握に努めている。 (外部評価) センター方式を取り入れ、今までの生活歴を活かした支援に取り組んでいる。ケアの中で気づいたことや、利用者同士の会話、職員との会話から把握したこと等は申し送りノートに記録し、全職員が共有できるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人を理解する上で、バックグラウンドを知る事は重要だと考えてます。プライバシーを考量しながら把握に努めています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人、ひとりの生活のリズム、心身の状態、出来る事、解る事等のその人の全体像を把握するように努めています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアの あり方について、本人、家族、必要な関係 者と話し合い、それぞれの意見やアイディ アを反映し、現状に即した介護計画を作成 している	(自己評価) プラン作成時に職員、家族参加して頂き、ミーティ ングし、いろんな意見を頂き、プラン作成に生かしてい る。	
			(外部評価) 家族から聴き取りした事をアセスメント様式に記入 し、利用者や家族からの意見や要望を取りいれなが ら、職員全員で検討し介護計画を作成している。現状 に応じてプランの見直しをしている。完成した計画は 家族に確認してもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや 工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を 共有しながら実践や介護計画の見直しに活 かしている	(自己評価) センター方式の24時間シートを使い記入してい るが、まだ活かさきれていない。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機 能化 本人や家族の状況、その時々にもまれる ニーズに対応して、既存のサービスに捉わ れない、柔軟な支援やサービスの多機能化 に取り組んでいる	(自己評価) 利用者や家族の方の状況により、送迎、通院介助等急 な事も臨機応変に対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源 を把握し、本人が心身の力を発揮しながら 安全で豊かな暮らしを楽しむことができる よう支援している	(自己評価) 買い物が好きな方にはスーパーに出かけ買い物をした りお寿司やさんで外食したり楽しんでます。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 本人家族が希望される医療機関に受診し、通院は家族 と協力し支援している。又情報も共有し適切な医療を 受けられるよう支援している。</p> <p>(外部評価) 入居後も今までのかかりつけ医や希望の病院を受診し ている。受診介助は基本的に職員が行い、診察結果を 家族に報告している。急変時は、事業所の協力医療機 関から往診も可能で、適切な医療が受けられるよう支 援している。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 看護師が二人、准看護師が二人いて何かあればすぐに 連絡相談に乗っていただける。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院した場合利用者のダメージが少なくなるように面 会に行ったり、ホームの方針を病院に伝えたり又退院 時にはホームに帰ってからの注意点等病院より指示を 頂いている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 重度化した場合、本人家族意向を聞き、ホームで出来 る事、出来ない事お話し、家族と協力の下、随時意思 を確認しながら取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 普通救命講習を全員が定期的に受講している。看護師 の配置や看取り指針の整備など、利用者の終末期に関 しての準備は行われている。また、事業所としての対 応可能な範囲も設定されており、重度化に対しての方 針も打ち出されている。</p>	<p>利用者の緊急事態に対応できるように、緊急時の対応 マニュアルを作成するなど期待したい。そして、今後 利用者が穏やかに終末期を迎えることができるよう、 職員に対して勉強や訓練の機会を定期的かつ濃密に行 うことを期待したい。</p>

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 職員は普通救命救急士の講習を受けている。今後も定期的に受講して行きたい。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練を年に2回実施し、地区の消防団とも連携が取れている。しかし地震や水害の対策は十分ではない。 (外部評価) スプリンクラーの設置、緊急連絡網の整備がされており、年2回の避難訓練が実施されている。消防署・地元の消防団と協力体制が構築され、避難訓練時に近隣の人が利用者の見守りをしてくれるなどの協力もある。災害時に備え必要な備蓄も行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 年長者として敬意を払い対応している。又職員にも徹底している。 (外部評価) 一人ひとりの尊厳やプライバシーに配慮した支援に努めている。日常生活の中での排泄の誘導や入浴時等の場面では、利用者の誇りやプライバシーを損なうことがないように気配りしながら、目立たずさりげない言葉かけで対応している。利用者の個人情報の取り扱いには十分注意し、記録類は事務室で保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 職員は利用者と共に過ごす中で希望、思いを把握し自己決定できるように働きかけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人、一人のペースを大切にし、なるべく希望に添って支援しているが、時には通院、入浴等職員の場合によって対応出来ないときもある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 基本的には本人が着替えをされている。支援が必要な人は、声かけし一緒に行っている。カットに来て頂いているが、美容院へ行きたい人は送迎支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者が昔、作っていた料理など教えていただきながら一緒に作ったり、畑で収穫できたものを皆で話題にしたりして、一緒に食事を楽しんでいる。 (外部評価) 職員と利用者が一緒に食事を楽しむ取組がなされており、調理の準備や後片付け等、役割分担され利用者のペースでゆっくり行われている。支援の必要な利用者には職員が横に座り援助している。食事風景は、大変穏やかで何度も「美味しい、美味しい」という声が聞かれる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 水分量を把握し脱水にならないように支援している。又月に1回だがカロリー計算をし、栄養バランスの参考にしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後声かけし、自分でできる方は自分でされ、出来ない方は介助し、行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 便意のない方も朝食後トイレに座って頂き、排泄が出来るように支援。失敗された方もさりげなく声かけ、誘導し支援している。	
			(外部評価) 排泄チェック表を活用しながら利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、プライバシーに配慮しながら時間誘導、声かけを行いトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 一人ひとりの排便の状態を出来るだけ把握し、水分、運動、繊維質の多い食材など提供し、調整している。下剤の調整。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) その日のタイミングや気分によって入られる。嫌がられる人には気分よくなって頂いた後、声かけると入られる事が多い。	
			(外部評価) 一人ひとりの希望や時間、その日の気分、体調に合わせて自分のペースで毎日入浴することも可能な体制となっている。入浴を拒む利用者には声かけや対応を工夫し、タイミングに合わせて入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中の生活を充実させ、又夕方から穏やかに過ごしていただけるように取り組んでいる。又眠剤を服用されている方は、副作用など注意をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方薬の効能書をファイルに保管し、職員が何時でも見れるようになっていた。又変更、中止、新しく処方などある場合は連絡ノートに記入し職員にわかるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 得意分野で力を発揮してもらえ、出来そうな事はして頂き感謝の気持ちを伝えている。又外出、買い物等気分転換が出来るよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) その日の気分によって買い物、ドライブ、又従姉妹さんから電話が掛かると外出され、外食され帰られる。(送迎支援)家族さんの協力を得、弁当を持ってお花見に行ったりしている。	
			(外部評価) 家族の支援を得ながら、本人のペースに合わせて、可能な限り外出できるように支援に努めている。利用者がうれしそうに家族と外出される場面も見かけた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 御自分で少量のお金を所持されている方もいる。又御自分で管理できない方も外出時等、預かっているお金を小額お渡しし安心されるようにしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族、友人、知人、電話があると繋ぎ、掛けて欲しいといわれるときはすぐに掛け、何時でも連絡が取れるように支援している。又年賀状、暑中見舞い、お礼状等出される事へ支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 玄関先のベンチ、玄関の入った所のソファ、リビングのソファ、和室。等どこでも座れる場所があり、明るく、静かで風も通り気持ちよく過ごして頂いています。	
			(外部評価) 居間兼食堂に畳のスペースや壁掛け式の大型テレビが設置されている。テーブルに花が生けてあり、壁には季節感を感じることでできる飾付けや、利用者と職員の共同作品、行事等の様子を撮影した写真が提示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 玄関先のベンチ、玄関の入った所のソファ、リビングのソファ、和室、庭のベンチ等思い思いに過ごされている	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ダンス、仏壇、写経用のテーブル等持って来られ、本人が使いやすいようにされている。	
			(外部評価) 備え付けのベッド、ダンス等の他に使い慣れた家具、愛用していた物品が持ち込まれている。壁には家族と一緒に過ごした懐かしい思い出の写真も飾られており、自分らしい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 利用者の身体状況を見極め玄関の椅子、手すりの設置、目印、環境整備に努めている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870300492
法人名	医療法人 三善会
事業所名	グループホーム 薬師谷マナー
所在地	愛媛県宇和島市川内甲2101番地
自己評価作成日	平成 22年 7月 12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 22年 8月 4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

寄り添い、出来ない事を支援し、笑い声が聞こえる明るいホームを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人が運営しているため、入居者、職員の健康管理には十分な配慮がされている。管理者をはじめ職員全員は、利用者一人ひとりの人格を尊重し穏やかな笑顔で寄り添うことを心掛けており、日々、心のこもったケアを行っている。また、職員のレベルアップを目指した研修や資格取得などにも力を入れて取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム薬師谷マナー

(ユニット名) 雪輪

記入者(管理者)
氏名 横濱 和枝

評価完了日 22 年 7 月 11日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 地域密着型の意義をスタッフ間で話し合い、ユニット独自の理念を作り上げ、実践に繋げようとしている。	
			(外部評価) 職員の話し合いで作った基本理念は、利用者が地域の中でその人らしく暮らしていくことを支える理念として掲げ、さらに各ユニットで具体化した行動目標をホーム内のわかりやすい場所に提示し、職員全員で共有し、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 自治会活動にも参加出来る事は協力し、又日々の散歩時の挨拶、日常的な会話等普通に交流している。	
			(外部評価) 自治会に加入し、地域の一員としての役割を担うとともに、行事を把握して地区の清掃活動や運動会、七夕祭り等に積極的に参加し、地域との交流を大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 特別な事はしていないが、日々の交流により認知症の方の理解は出来つつあると思う。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1度開催していて、いろいろな意見を頂き、サービスに生かしている。又ホームの取り組みや、実情を報告し、オープンにしている。	
			(外部評価) 会議は2か月に1回開催され、議事録は整備されている。事業所からの活動状況報告、イベント開催のお知らせなどしている。参加者との何気ない話から要望が出たり、家族からも活発に意見が出され、そこでの意見等がサービス向上に活かされている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議へ参加協力、介護相談員の受け入れ、市GH連絡会への参加、介護保険事業の円滑な運営に協力。	
			(外部評価) 運営推進会議には必ず市担当者の出席があり、サービスについて情報を得ている。介護認定の更新の機会など市担当者に利用者の暮らしぶりや、ニーズを伝え連携を深めている。市内のグループホーム連絡会に加入し、他事業所との交流や意見交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 職員の見守りを徹底し、拘束の弊害をスタッフ間で話し合い、安全面を優先するか、多少のリスクはあるが自由に暮らして頂くか話し合いを行い納得いく支援を行っている。	
			(外部評価) 管理者、職員ともに身体拘束による利用者への身体的、精神的な苦痛を理解するとともに、身体拘束ゼロへの手引きや職務の中で学習をしながら、玄関の施錠を含めて身体拘束をしない支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 言葉、無視、虐待にはいろいろあり何が虐待に当たるかスタッフ間で話し合い共有できている。またスタッフのストレスにも配慮し、防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 身寄りの無い方に後見人の制度を話し、手続きした。他の方は家族が管理されている方が殆どである。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に十分時間を取り、納得の上契約をしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議や訪問時等、常に声かけし、何でも言ってもらえるように気を配っている。要望などはミーティング等で話し合い、反映出来る事はしている。	
			(外部評価) 運営推進会議を通じて意見や要望をもらっている。また、家族の面会時に話し合える環境も作っている。利用者、家族、親族の思いが違ふこともあり日常のかかわりの中で、本人の思いを聞く努力をしている。出された意見は運営に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員ミーティング等で意見があれば、管理者ミーティングで取り上げ、対応できるものは対応している。 (外部評価) 管理者は、普段の会話等の時にも職員が話しやすい雰囲気作りを気配っている。職員も活発な意見を出し合い、より良い運営ができるよう全員で取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 管理者ミーティング等で、職員の状況を（不満、意欲、環境等）把握し、研修、資格所得等推進し職場環境を整えようとはしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修は参加させて頂き、資格所得にも協力して頂いている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) GH連絡会、GH協議会などの参加は認めて頂いているが、特定のホームとは交流も認めて頂いているが、他のホームとはあまり出来ていない。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 十分時間をとり、本人さんの思いを聞き、困っている事、不安な事等、安心いただけるよう関係作りに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご家族が求めているものを理解し、ホームとしてどのような対応が出来るのか話し合い、納得して入居して頂いている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時にその方にとって、今何が必要か、見極め柔軟に対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 寄り添い、さりげなく支援できるように考えている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族さんの負担にならない程度に、協力して頂けるように働きかけ、一緒に支えて行けるような関係を築いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	(自己評価) お彼岸、命日等お墓参り、知人宅への送迎、今までの生活が継続できるように支援している。 (外部評価) 行きつけの美容室に通ったり、昔からの友人が訪問してくてくれる。元教師の利用者に教え子が訪ねてくることもある。また、行きたい場所へは家族の協力を得ながら可能な限り行くようにし、馴染みの人や場所との関係が途切れずに継続できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者どうしの関係の重要性は皆認識していて、職員が調整をし、良好な関係が維持できるように努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約が終了しても相談があれば、相談に乗り、経過もフォローしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の関わりの中で、声をかけ、把握に努めている。 (外部評価) センター方式を取り入れ、今までの生活歴を活かした支援に取り組んでいる。ケアの中で気づいたことや、利用者同士の会話、職員との会話から把握したこと等は申し送りノートに記録し、全職員が共有できるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人を理解する為に、バックグラウンドを知る事は重要だと考えています。プライバシーを考量しながら把握に努めています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人、一人の生活のリズム、心身の状態、出来る事、解る事等のその人の全体像を把握するように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人、家族、職員で話し合い介護計画を作成している。	
			(外部評価) 家族から聴き取りした事をアセスメント様式に記入し、利用者や家族からの意見や要望を取り入れながら、職員全員で検討し介護計画を作成している。現状に応じてプランの見直しをしている。完成した計画は家族に確認してもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) センター方式の24時間シートを使い記録しているが、まだ十分活かしてきれていない。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) お墓参り。受診時の送迎、付き添い。自宅までの送迎等柔軟に対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 自宅の近隣の方との交流支援、自治会の行事への参加、近所のスーパーへ買い物支援等、個別に対応。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人家族が希望される医療機関に受診し、通院は家族 と協力し支援している。又情報も共有し適切な医療を 受けられるよう支援している。 (外部評価) 入居後も今までのかかりつけ医や希望の病院を受診し ている。受診介助は基本的に職員が行い、診察結果を 家族に報告している。急変時は、事業所の協力医療機 関から往診も可能で、適切な医療を受けられるよう支 援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護師2人、准看護師2人いて、すぐに相談でき、対 応できる。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には病院へ情報提供を行い、入院時のダメージ を軽減できるように頻りに面会に行き、退院時には病 院より情報を頂いている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 家族と話しあい、ホームで出来る事、出来ない事をお 話し、家族と協力の下、随時意思を確認しながら取り 組んでいる。 (外部評価) 普通救命講習を全員が定期的に受講している。看護師 の配置や看取り指針の整備など、利用者の終末期に関 しての準備は行われている。また、事業所としての対 応可能な範囲も設定されており、重度化に対しての方 針も打ち出されている。	利用者の緊急事態に対応できるように、緊急時の対応 マニュアルを作成するなど期待したい。そして、今後 利用者が穏やかに終末期を迎えることができるよう、 職員に対して勉強や訓練の機会を定期的かつ濃密に行 うことを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 職員全員が普通救命の講習を受けている。今後も定期的に受講して行きたい。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に2回訓練を行い、1回は消防署から地区の消防団にも協力を頂いている。しかし地震や水害の対策は十分ではない。 (外部評価) スプリンクラーの設置、緊急連絡網の整備がされており、年2回の避難訓練が実施されている。消防署・地元の消防団と協力体制が構築され、避難訓練時に近隣の人が利用者の見守りをしてくれるなどの協力もある。災害時に備え必要な備蓄も行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 年長者として敬意を払い対応している。又職員にも徹底している。 (外部評価) 一人ひとりの尊厳やプライバシーに配慮した支援に努めている。日常生活の中での排泄の誘導や入浴時等の場面では、利用者の誇りやプライバシーを損なうことがないように気配りしながら、目立たずさりげない言葉かけで対応している。利用者の個人情報の取り扱いには十分注意し、記録類は事務室で保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 職員は利用者と共に過ごす中で希望、思いを把握し自己決定できるように働きかけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人、一人のペースを大切にし、なるべく希望に添って支援しているが、時には通院、入浴等職員の場合によって対応出来ない事もある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 基本的に本人の意思で決められている。職員は見守りや支援が必要な人には本人の意向を把握し、その人らしさを保てるように支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 調理、盛り付け、片付け等出来る事を一緒にして、食事を楽しみながら一緒にしている。 (外部評価) 職員と利用者が一緒に食事を楽しむ取組がなされており、調理の準備や後片付け等、役割分担され利用者のペースでゆっくり行われている。支援の必要な利用者には職員が横に座り援助している。食事風景は、大変穏やかで何度も「美味しい、美味しい」という声が聞かれる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) チェックが必要な人には水分量を把握し、月に1回はカロリー計算を行い、栄養バランスの参考にしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後歯磨きの声かけ、確認をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個別にその人によって対応している。身体機能に応じ手引きで歩行介助、紙パンツ、パット類も本人に合わせて使用。夜間のみ使用、等	
			(外部評価) 排泄チェック表を活用しながら利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、プライバシーに配慮しながら時間誘導、声かけを行いトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘の弊害も十分理解し、水分補給、繊維質の多い食材運動をし、自然排便が出来るように取り組み、下剤は調整し、投与している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 午前中から入られる方、毎日入られる方、個別だが夜は職員の都合で対応出来ない。	
			(外部評価) 一人ひとりの希望や時間、その日の気分、体調に合わせて自分のペースで毎日入浴することも可能な体制となっている。入浴を拒む利用者には声かけや対応を工夫し、タイミングに合わせて入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) なるべく日中の時間帯を充実させ、夕方からの時間帯をゆったりと、安心して暮らせるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の効能書をファイルにし、職員は何時でも見ることが出来、又変更、中止、新しく処方された時は連絡帳、に記載し、職員全員が把握出来るようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 役割、楽しみごと（手芸）、買い物、ドライブ、等気分転換個別に対応している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) お墓参り、買い物、ドライブ等出かけ又お弁当を持ちお花見など出かけている。	
			(外部評価) 家族の支援を得ながら、本人のペースに合わせて、可能な限り外出できるよう支援に努めている。利用者がうれしそうに家族と外出される場面も見かけた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 一人ひとりの力に応じて、御自分で小額のお金を所持し、買い物を楽しまれたり、個別に対応している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 御自分で電話をかけられる方も居る。又掛けられない方も職員が変わって掛けいつでも話が出来る。年賀状を書く支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居間、食堂等、明るく風も通り、緑もあり気持ちよく過ごせる空間があり、又飾り付けも季節感があり入居者と一緒に飾り付けを行っています。	
			(外部評価) 居間兼食堂に畳のスペースや壁掛け式の大型テレビが設置されている。テーブルに花が生けてあり、壁には季節感を感じることでできる飾り付けや、利用者と職員の共同作品、行事等の様子を撮影した写真が提示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 階段の上がったところ、居間、ソファがあり、和室もあり、思い思いに過ごして頂ける。又お互いのお部屋に訪問したりされている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 本人が使われていたダンス、テレビを持ってこられている方、いろいろです。	
			(外部評価) 備え付けのベッド、ダンス等の他に使い慣れた家具、愛用していた物品が持ち込まれている。壁には家族と一緒に過ごした懐かしい思い出の写真も飾られており、自分らしい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 手すり、目印、又転倒の危険のある方ベッドを退けて布団にしている方、フローリングの上にマットを引いている方個別に対応している。	